

# 組合だより

第179号  
2014年  
8月19日

発行所 岡山大学職員組合  
〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1  
電話 086-252-1111 (代)  
7168 (内線)  
直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp)

目次：1~2, 新三役, 学長へ挨拶  
3, 単組だより (理学部) 七夕観望会  
3, センター試験業務手当についての質問書への回答  
4, ローカル線で行く! フーテン旅行記 第19回

## 新三役, 学長へ挨拶



6月の組合役員の交代を受け、7月15日(火)11時から12時まで、新役員で学長に挨拶に行ってきました。森田学長、阿部企画・総務担当理事が本部棟5階、学長室において面談してくださいました。組合からの参加者は、中富委員長(法)、西野副委員長(農)、山口副委員長(教)米山副委員長(法)、藤原書記長(理)、岡本書記です。今回の挨拶では、大学が抱える諸問題並びに今年度組合の重視する問題について意見交換することが主旨であり、交渉とは異なります。全体として和やかな雰囲気の中で意見交換がなされました。

当初、組合の用意した話題は、①ガバナンス改革の意義と課題、②スーパーグローバル大学(SGU)採択について、③クォーター制・60分

授業について、④論文不正疑惑について、⑤高齢層職員昇給抑制について、⑥年俸制について等です。これらの話題の前提として、2期目を迎えた森田学長の基本姿勢に関して話をうかがうことから意見交換は始まりました。以下、概略につき報告します。

### I 2期目における学長の基本姿勢

「学長選挙後、2期目の森田体制では、副学長を増員し、執行部の強化を図っているが、これは教授会の影響力低下ないし、いわゆるトップ・ダウン化を意図してのことか」聞きました。

学長は、「学長選を経て心境の変化があり、1期目での不達成感が残った。1期目よりもスピード感をもって諸改革を進めるための体制強化・ガバ



ナンス強化を意図したものであり、トップ・ダウン化を図るものではない」と説明されました。

これに対して、「そもそも『改革』の目的は何か」と質問したところ、学長は「生き残るため。人口減・産業界等社会的圧力増大を受けて、物理的に大学の数が減る中で、大学は現行のまま生き残ることは困難である。改革を通して岡山大学の存在感を示す必要がある」と回答されました。

## II 岡山大学のめざすべき大学像

次に、「文科省は、大学の位置付けに関して、①世界最高水準の研究・教育拠点、②全国的研究・教育拠点、および③地域活性化の中核的拠点といった3極化を企図しているようだが、岡山大学は、このうちどれをめざすのか」学長の所信を訊ねました。

これについては、「①ないし③のいずれかを選択するのは困難である。単なる地方大学(③)ではないが、①と②の間、第4極をめざす」とされ、いわゆる旧六大学として、旧七帝大、戦後新設の地方大学のどちらでもない岡大の非常に困難な立ち位置につき言及されました。



## III ガバナンス改革

先述した副学長増員策として、研究科長と副学長との兼務は、現場(各部局)の意見軽視ないし、大学執行部による現場統制に帰結するおそれがあり、「副学長と研究科長の兼務は、旧憲法下の内務省官吏の知事就任と同様に、中央集権化策にほかならない」旨を指摘しました。

学長は、「あくまでも部局(現場)の意見を執行部に汲み上げるための方策であり、副学長が学

長に従属し、意見表明の機会を奪われるわけではないので、副学長と研究科長の兼務が、必ずしも執行部独裁強化につながるとはいえない」と回答されました。

## IV その他

岡山大学の必要性につき、総論は賛成するが、具体的に何を求めて改革するのか、いまひとつ明確でないとの意見を述べた上で、以下の諸点につき要望しました。

- ①大学の研究力強化の早道は、大学院生・若手教職員支援ではないか。若手研究者が成長する基盤整備を考えてほしい。
- ②論文不正疑惑の防止策強化。
- ③クォーター制導入の功罪、可否についての慎重な検討。
- ④55歳昇給抑制の再考。
- ⑤年俸制導入についての説明等。

## V おわりに

今回の学長との話し合いの中で、岡山大学の置かれた厳しい状況を良く理解できました。この点で私達も共通の基盤に立つことが否応なしに求められていることを実感しました。競争力強化が至上命題であり、学長のいう第4極に位置する大学となるためには、だからこそ、執行部と現場教職員との共闘が必要なはずで、ガバナンス改革で採られている手法は、会社法学的に表現するならば独立取締役・社外取締役的、経営・執行部とは距離をおいた中立的役職員確保によるか、労働代表の執行部参加(労働者代表制)によるべきものと考えます。学生本位の改革を前提とする以上、更にその前提として、教職員の待遇改善を通じた「岡山大学愛」の涵養が重要です。従って、IVで述べた諸々の要望の実現が本年度の目標です。

要は、何よりヒトの組織であり、営利至上主義を採らない大学社会において、企業の論理至上主義的な昨今の高等教育行政と、いかに切り結んでいくかということだと思料します。個人的には、岡大出身者である学長の考えに共鳴する部分もありました。だからこそ、強権的な命令の発動ではなく、議論を通して共通理解を増やすことで共闘は可能であると信じています。団交においても、この見地から取り組んでいきたいと思ひます。(文責 米山毅一郎)

岡山大学職員組合では、6月17日に、センター試験業務手当についての再質問を提出しておりました。7月4日に回答が届きましたので、報告します。



センター試験業務手当についての質問書について（回答）

1. 2011年度の教員の入試手当の内訳について教えてください。

【回答】@12,000円 492人（延人数） 支給額：5,904,000円

2. 2012年度と2013年度では、教員別に入試手当の内訳は変わっていないのに、2013年度の残額が少なくなっているのはなぜですか。

【回答】大学入試センター試験の業務に対する入試手当の額は、「博士論文審査手当及び入試手当支給基準」で以下のとおり定められており、入試手当の内訳が、支給総額に影響を及ぼすものではない。

◆大学入試センター試験の業務（試験当日の業務に限る。）

1日当たり12,000円（ただし、「地理歴史、公民」又は「理科」の監督補助者のみを行う者にあっては6,000円、「英語【リスニング】」監督補助者のみを行う者にあっては4,000円）

3. 職員の入試手当の単価内訳を教えてください。

【回答】上記2の回答のとおりである。職員については、@6,000円、@4,000円の業務実績がなかったものである。

4. 大学入試センターからの配分額に残額が出た場合、それはどのように使われているのか教えてください。

【回答】センター試験の事前準備等に伴う超過勤務手当等、一般の人件費に充てている。

単組だより（理学部）

## 七夕観望会

7月7日といえば七夕ですが、理学部職員組合は七夕観望会を7月7日の夕方7時30分から七夕観望会実行委員会と共催で行いました。七夕観望会実行委員会は、博物館実習と



いう理学部の授業内で作られた学生主体の団体で、この授業を受講する学生と担当教員によって構成されています。今回の企画の実働、広報活動、会場の手配や準備、当日の接客などは実行委員会が行い、組合は主に資金面で協力いたしました。

天気が良ければ、理学部屋上に望遠鏡を設置して、月や土星や火星などを観察する予定だったのですが、あいにく天気が悪く、雨天時用企画の四次元デジタル地球儀の展示を理学部小会議室にて行いました。四次元デジタル地球儀は、直径2mの球形スクリーンにプロジェクターを使って地球や他の天体の表面を立体的に投影する装置です。専用のソフトウェアを使って様々なテーマの

映像を投影することができます。「太古からの大陸移動の変遷」、「極域上空のオゾンホール発生の様子」、「プレート境界と震源の分布」などの映像に合わせてスタッフが解説を行いました。

当日は悪天候にも関わらず60名を超える大勢の参加がありました。小さな会議室に参加者が全員収まりきらなかったため、何度か人を入れ替えて解説を行うことになりました。迫力ある映像にあわせて語られる最新地球科学の話題に、参加者は興味深く聞きいていました。会議室に入りきらなかった参加者は廊下にあふれていましたが、廊下には七夕の笹が飾ってあり、短冊に思い思いの願いを書いてつるしてしていました。また、タブレットやLED照明を利用した天文分野の展示もあり参加者の目を楽しませていました。

学生主体の企画で参加者もほとんどが学生でしたが、教職員の参加も何人かあり、興味深い展示を楽しみつつ教職員同士の交流を深めることができました。

### ドーナツをロー杯に日焼けの子 一代

「ぼくも作るう」「ぼくも」「ぼくも」と、近所の友達も一緒に。台所が粉のお城に大変身。できたてを、アチチッと、フーフーしながら食べる。日焼けして、真っ黒な顔の子どもたちがロー杯に、ほおぼる。おいしいね。また作ろうね。

## ローカル線で行く！フーテン旅行記 第19回

### かつての軍港に思いを馳せて！ 呉線

工学部単組 大西孝

2005年に公開された映画「男たちの大和」で、戦艦大和に注目が集まりました。同じ年に広島県呉市に開館した「大和ミュージアム」こと呉市海事歴史科学館にも多くの人々が足を運んでいます。今回は、戦前に軍港として栄えた呉へ向かう呉線をご紹介します。

呉線は広島県の海田市駅（かいたいち、広島駅から3つ東にある駅）から三原駅の間を、瀬戸内海に沿って走ります。重要な軍港都市である呉から広島を結ぶために、海田市から呉の間は明治36年（1903年）に開通した歴史のある路線です。その後、昭和10年に全線が開通し、戦前は重要路線として、多くの急行列車が行き交いました。戦後も昭和50年ころまでは特急や急行が走っていましたが、今では完全に地域の足となり、広島から呉を結ぶ快速列車と、普通列車が運行される路線になりました。

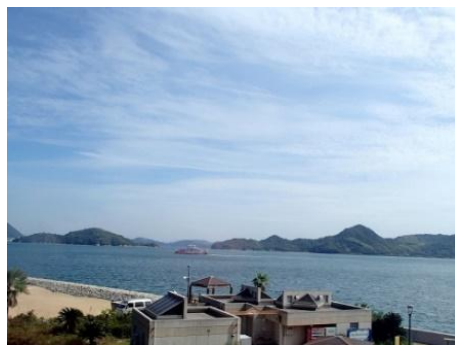
呉に行く場合、広島まで新幹線で行き呉線へ乗り継ぐのが最速の経路で、広島から呉までの区間は運行回数も多く確保されています。一方で呉から三原の間を走る東側の区間は、1時間に1本程度しか電車が来ず、完全にローカル線となっているものの、三原駅から竹原駅にかけては瀬戸内海の間際を走るため、窓いっぱい広がる瀬戸内の景色を堪能できます。この区間を走る電車には、高度成長期に東京や大阪で通勤客を満載して走っていたロングシート（窓に背を向けて座る長い座席）の車両も使われており、昭和の通勤電車の香りを色濃く残す車内と車窓に広がる美しい海の対比も新鮮です。東側の区間では電車の多くが2両か3両編成ですが、途中駅のプラットホームは非常に長く10両程度の列車でも停車できそうです。これは戦前の幹線だったころに多くの急行列車が行き交った名残で、長いホームにちょこんと短い編成で停車する通勤電車というものも、呉線ならではの光景です。

呉に着くと、駅の南側つまり海側へ歩けば大和ミュージアムがありますが、その途中で東側を見ると、巨大な潜水艦が目に入ります。周りの建物と比べると、普段見る機会の少ない潜水艦の大きさに圧倒されます。これは海上自衛隊で活躍していた「あきしお」という潜水艦で、平成16年に

引退し、現在は広報施設として艦内が公開されています。隣接する建物では、海上自衛隊の歴史や掃海技術（水中に設置された機雷を除去する技術）が詳しく説明されており、現在の海上自衛隊の活動がよく理解できます。

大和ミュージアムでは、大和をはじめとした戦前の造船技術が、現在の様々な身近な製品の開発や製造に生かされていることが分かります。同時に大和の乗員の手紙や特攻兵器「回天」（いわゆる人間魚雷）なども展示されており、先の大戦を思うと神妙な気持ちになります。

この夏は、歴史の香りのする呉線の旅はいかがでしょう？ 海を見ながら、かつての軍港に思いを馳せれば、色々なことが頭に浮かぶことと思います。



呉線の車窓から眺める瀬戸内海の島々。三原を出てしばらくの間は、海が車窓の間近に迫ってきます。



大和ミュージアムにある戦艦大和の模型。実物の1/10の大きさですが、25m プールより長く、圧倒されます。



呉駅の南に鎮座する潜水艦。海上自衛隊で使用されたもので、周囲の建物よりも大きく、目を引きま